

令和元年度（平成30年度対象）

# 京丹波町教育委員会 点検・評価報告書

令和元年11月

京丹波町教育委員会



## 1 はじめに

平成20年4月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正がなされ、効果的な教育行政の推進と住民への説明責任を果たしていくために、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、自己点検及び評価を行い、その結果を議会に報告するとともに、公表することが義務づけられた。

本教育委員会では、この法律に基づき平成20年度（平成19年度対象）から、教育委員会の施策・事業の点検・評価を実施しており、今年度で12度目の点検・評価となる。地方における教育行政の中心的担い手としての役割発揮に向けて、教育委員会事業の更なる改善・改革を進める努力を重ねていきたい。

## 2 教育委員会議の開催状況

教育委員会議については、原則として毎月1回「教育委員会定例会」を、また必要に応じて「臨時会」を開催し、平成30年度は合計14回開催した。

- (1) 教育委員会定例会・・・12回
- (2) 教育委員会臨時会・・・2回

## 3 教育委員会議での審議状況

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第23条に定める職務について、同法第26条及び「京丹波町教育委員会教育長事務委任規則」の規定に基づき、平成30年度は合計で15件について審議した。

- (1) 教育委員会規則等の制定及び改廃・・・・・・・・・・・・・・ 6件
- (2) 職員（教職員を含む）の人事に関する事・・・・・・・・・・・・ 1件
- (3) 法令又は条例に定めのある附属機関の委員の委嘱・・・・・・・・ 2件
- (4) その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6件

### ○ 平成30年度 教育委員会審議案件等一覧

議案番号	件名	議決日
第1号	京丹波町就学援助に関する規則の一部を改正する規則の制定について	H30.5.15
第2号	京丹波町育英資金評議員会委員の委嘱について	H30.6.5
第3号	平成30年度京丹波町育英生の決定について	H30.8.16
第4号	京丹波町私立幼稚園奨励費補助金交付要綱の一部を改正する要綱について	H30.8.16
第5号	京丹波町外国青年勤務成績評定要領の一部を改正する要領の制定について	H30.8.16
第6号	京丹波町スポーツ賞表彰規程の一部を改正する要領の制定について	H30.8.16
第7号	京丹波町文化賞表彰規程の一部を改正する規程の制定について	H30.8.16
第8号	平成31年度町立小学校使用教科用図書の採択について	H30.8.29
第9号	平成31年度町立中学校使用教科用図書の採択について	H30.8.29
第10号	平成31年度町立中学校使用教科用図書（特別の教科「道徳」）の採択について	H30.8.29

第11号	平成30年度（平成29年度対象）京丹波町教育委員会点検・評価報告書について	H30.11.6
第12号	京丹波町立中学校自転車通学に関する支援事業実施要綱の一部を改正する要綱の制定について	H31.1.18
第13号	平成30年京丹波町文化賞被表彰者の決定について	H31.2.15
第14号	京丹波町立小・中学校校長及び教頭の人事異動について	H31.2.27
第15号	京丹波町立学校・幼稚園の学校（園）医、学校（園）歯科医及び学校（園）薬剤師の委嘱について	H31.3.19

○ 平成30年度 教育委員会議 主な報告等事項

番号	件名	報告日
1	平成30年京丹波町議会第1回定例会について	H30.4.5
2	平成30年度京丹波町教育委員会事務局体制について	H30.4.5
3	平成30年度幼・小・中学校職員体制及び学級編成について	H30.4.5
4	平成30年度京丹波町教育の指針について	H30.4.5
5	社会教育課4月の行事等予定について	H30.4.5
6	町立認定こども園開設に係る基本計画及び京丹波町立（仮称）たんばこども園新園舎建設基本計画について	H30.5.15
7	平成30年度教育委員会後援名義使用承認状況について	H30.5.15
8	平成30年度学校（園）等行事予定	H30.5.15
9	社会教育課5、6月の行事予定等について	H30.5.15
10	学校訪問について	H30.6.5
11	平成30年度京丹波町中学生国際交流事業 ニュージーランド派遣及び受入の中止について	H30.6.5
12	要保護及び準要保護就学援助制度認定状況について	H30.6.5
13	社会教育課6月の行事予定等について	H30.6.5
14	学校施設ブロック塀等安全点検結果について	H30.7.3
15	新規招致予定の外国語指導助手（ALT）について	H30.7.3
16	社会教育課7月行事予定等について	H30.7.3
17	認定こども園の進捗状況	H30.8.16
18	7、8月の行事報告及び8、9月の行事予定について	H30.8.16
19	新規招致予定のスポーツ国際交流員（SEA）について	H30.8.16
20	社会教育課9月の行事予定等について	H30.9.18
21	社会教育課10月の行事予定等について	H30.10.2
22	認定こども園開設に向けた進捗状況	H30.11.6
23	社会教育課11月の行事予定等について	H30.11.6
24	教育委員会教育長並びに教育委員会委員の任命について	H30.12.17
25	社会教育課12月、1月の行事予定について	H30.12.17
26	町立認定こども園開設に係る調整事項（中間）検討結果報告	H31.1.18
27	社会教育課1月、2月の行事予定について	H31.1.18

28	京丹波町瑞穂学校給食センターにおける給食調理員のノロウイルス陽性反応事案の発生について（報告）	H31.2.15
29	京丹波町いじめ問題対策連絡協議会の報告について	H31.2.15
30	社会教育課2月、3月の行事予定について	H31.2.15
31	社会教育課3月、4月の行事予定について	H31.3.19

#### 4 教育委員会活動の概要

##### (1) 学校訪問

実施日	平成30年 7月3日（火）	須知幼稚園、竹野小学校、蒲生野中学校
	10月2日（火）	下山小学校、瑞穂小学校、瑞穂中学校
	11月6日（火）	丹波ひかり小学校、和知小学校、和知中学校
参加者	教育委員・教育長6人、事務局1人	
訪問先	幼稚園、小学校、中学校	
取組概要	① 管理職から学校運営課題のヒアリング ② 学校施設の状況把握 ③ 授業、行事参観 ④ 給食の試食	

#### 5 教育委員会に関わるその他の活動（教育委員が出席した活動等）

月	各種行事・大会等	
	京丹波町関係	国・府関係（開催場所）
4月	幼稚園入園式、保育所入園式 小・中学校入学式	
5月	総合教育会議（5/17）	南丹教育委員会連絡協議会総会・研修会 （5/9 亀岡市） 南丹地区教科用図書採択協議会第1回採択協議会 （5/9 亀岡市） 京都府市町村教育委員会連合会定期総会・委員研修会（5/28 京都市）
6月	第2回町議会定例会（6/4～6/20） 社会教育委員との懇談会（6/26）	
7月	タウンミーティング	
8月	タウンミーティング	南丹地区教科用図書採択協議会第2回採択協議会 （8/7 南丹市）
9月	第3回町議会定例会（9/3～9/26） 幼稚園、小学校運動会、中学校体育祭	
10月	地区体育大会 いじめ問題対策連絡協議会	
11月	「京丹波町中学生サミット」 ～学びの発表会～（11/14）	京都府内市町（組合）教育委員会研修会 （11/2 京都市）

12月	第4回町議会定例会（12/3～12/19）	
1月	新春互礼会	
2月		南丹教育委員会連絡協議会研修会 （2/8 京都少年鑑別所、教王護国寺）
3月	第1回町議会定例会（3/2～3/23） 須知高等学校卒業証書授与式 幼稚園卒園式、保育所卒園式 小・中学校卒業証書授与式	

## 6 教育委員会の構成

区 分	氏 名	住 所	任 期
教 育 長	樹山 静雄	上 野	平成30年12月12日～令和3年12月11日
教育長職務代理者	藤田 道子	西河内	平成25年12月12日～令和3年12月11日 （代理者任命 平成29年12月12日～）
委 員	竹吉 美公	下 山	平成26年12月12日～令和4年12月11日
委 員	上田 明成	妙楽寺	平成28年12月12日～令和2年12月11日
委 員	竹内 裕子	上乙見	平成28年12月12日～令和2年12月11日
委 員	津田 勝二	橋 爪	平成29年12月12日～令和3年12月11日
以下、平成30年度中に退任した教育長			
教 育 長	松本 和久	蒲 生	平成27年12月12日～平成30年12月11日

## 7 具体的な推進施策の取組み状況評価

### (1) 点検・評価の対象

平成30年度に実施した施策・事業を次の項目別に区分し、点検・評価の対象とした。

I 学校教育	
1 学校運営	(1) 特色ある学校づくり
	(2) 教職員研修の充実
	(3) 健康・安全の推進
	(4) 学校管理（危機管理を含む）の向上
	(5) 教職員の働き方改革の推進
2 学力充実・個性伸長	(1) 学習指導の徹底
	(2) 進路指導の充実と就学機会の保障
	(3) 特別支援教育の充実
	(4) 幼稚園教育の推進
	(5) 認定こども園の開設準備
3 人間性を育む教育	(1) 道徳教育の充実
	(2) 人権教育の充実
	(3) 生徒指導の推進
	(4) 文化・スポーツの推進
4 社会の変化に対応する教育	(1) 国際理解教育の充実
	(2) 環境教育の推進
	(3) 情報教育の推進
	(4) 土曜日を活用した教育の研究
	(5) 少子化等の課題に対応した教育の研究
5 教育環境の整備	(1) 学校施設の整備促進
	(2) 学校給食の運営
II 生涯学習	
1 生涯学習・社会教育の振興	(1) 社会教育委員活動の充実
	(2) 生涯学習の推進
	(3) 社会教育団体等の育成
	(4) 図書活動の充実
2 文化の振興と文化財保護	(1) 文化の振興
	(2) 文化財の保護
3 青少年健全育成	(1) 育成事業の推進・団体活動支援
	(2) 放課後児童対策の充実
	(3) 学校支援対策の推進
4 競技・生涯スポーツ	(1) スポーツ・レクリエーション活動の推進
	(2) スポーツ施設の活用と整備

(2) 点検・評価の方法

点検・評価にあたっては、京丹波町教育振興基本計画に基づき、施策・事業の内容と実績を明らかにするとともに成果と課題等を表示した。

また、点検・評価にあたっては教育に関して学識経験を有する方（外部評価委員）に助言を得た。

京丹波町教育委員会外部評価委員（令和元年度～令和2年度）

湊 友三郎	元小学校長、学校運営協議会会長
由良 賀代子	元小学校長、社会福祉協議会会長
野間 眞知子	元京丹波町国際交流協会副会長、女性の会会長

(3) 点検・評価結果の内容

(ア) 事業内容・実績・対象者等：主に取り組んだ事業内容、実績及び対象者等を示している。

成果・課題等：事業の実施に伴い、効果が得られた内容、成果及び課題を示している。表中、○は成果等を、●は課題等を表している。

(イ) 内部評価：計画目標に対し、外部評価委員の意見を踏まえて4段階評価を行った。評価判断基準は次のとおりとしている。A（計画どおり又は計画以上の成果を得た）、B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた）、C（課題を残し目標も達成できなかった）、D（成果がほとんど上がっておらず見直しが必要である）

(ウ) 外部評価委員会議において、委員から出された総括的な意見は次のとおり。

- ・学校教育、生涯学習とも幅広い分野で事業に取り組み、多くの成果を上げていることを確認した。
- ・教科によっては学力の向上に課題もあるようであるが、「学びを育む京丹波町メソッド」を基盤にした教職員研修を重ねていくことにより、更なる学力充実を期待する。
- ・各種団体委員の高齢化、指導者の担い手不足の問題を抱えながら、幅広い分野で事業を展開している。後継者の育成が課題となる中、工夫をしてこれからも取り組んでいく必要がある。
- ・ホッケーの全国大会出場、3位入賞等、京都トレーニングセンターの専門的な指導が成果として表れている。
- ・スポーツ・レクリエーション活動の推進においては、スポーツ推進委員の全国表彰をはじめ、ホッケー合宿の聖地化を図った施設の改修、全国合宿の実施等、多くの事業で非常に大きな成果があった。

(4) 評価結果

I 学校教育

1 学校運営

項 目	事業内容・実績・対象者	成果・課題等	評価
<p>(1) 特色ある学校づくり</p> <p>校園長主導の下、地域の特性を生かし、創意ある教育課程を編成し、「特色ある学校づくり」に努める。</p>	<p>① 学校評価 町内全学校・園において、学校評価を実施した。</p> <p>② 学校訪問等 教育委員による学校訪問、南丹教育局・町教育委員会による学校経営訪問を行い、学校教育の実施状況を把握した。</p> <p>③ 学校と地域の連携の推進 各学校・園において、地域住民と連携の上、豊かな自然、伝統文化等の地域資源を活用した特色ある取組を進めた。</p> <p>④ 京丹波町教育振興基本計画及び平成30年度教育の指針に基づき、特色ある学校づくりを進めた。</p>	<p>○ 町内全学校・園において学校評価を実施し、その結果を各学校の学校だより、ホームページ等で町民へ公表することができた。</p> <p>○ 各校とも特色ある教育課程を編成し、適切な教育活動が実施できた。</p> <p>○ 各学校・園において、地域人材の積極的な活用が図れ、特色ある教育活動としての成果が得られた。</p> <p>● 地域との連携や協働に積極的に取り組み、地域活性の核として地域とともに歩む学校づくりを推し進めることが必要である。</p>	B
<p>(2) 教職員研修の充実</p> <p>教職員は、教育公務員としての職責を自覚し、高い専門性を身につけ指導力の向上に努めるとともに学校評価を通して学校経営参画意識を高める。</p>	<p>① 教職員等の研修 各種公的研修の機会を提供した。また、授業改善を目指し、全教職員を対象にした夏季研修会を実施するとともに、「学びを育む京丹波町メソッド」推進プロジェクトチーム中心に授業のあり方についての実践研究を行った。</p>	<p>○ 公的な研修会等に各校の教職員が計画的・積極的に参加できた。</p> <p>○ 夏季研修会は、更新したICT機器の活用を示唆する実践的な講演としたことにより充実した研修会となった。</p> <p>○ 「学びを育む京丹波町メソッド」プロジェクトチームを中心に、授業研究を推進することができた。</p>	B

	<p>② 研究会支援事業 小学校研究会・中学校研究会等へ財政的な支援を行った。</p> <p>③ 学校評価 学校評価について校園長会議において、全学校・園への指導・援助を行った。</p>	<p>● 教職員一人一人の指導力量を高めるためには、「学びを育む京丹波メソッド」の理解を深めるとともに、プロジェクトチームの知見を普及させ、各校の校内研究実践を充実することが不可欠である。</p> <p>○ 各学校・園において、年間2回の自己評価と、年間1回の学校関係者評価を実施し、学校運営の改善に寄与した。</p>	
<p>(3) 健康・安全の推進</p> <p>基本的な生活習慣の確立をはじめ、食育指導並びに安全指導と安全管理を徹底し、心身ともに健康で安全に生き抜くための正しい判断力や実践力を身につけた児童生徒を育成する。</p>	<p>① 食育の推進 京丹波町食育推進計画を踏まえ、各学校で計画的に食育を推進した。「あったらいいなこんな食べものアイデアコンテスト2018」では、積極的に作品の応募を行った。</p> <p>② 安全な通学の確保 通学における安全等を確保し、保護者負担を軽減するため、スクールバスの運行委託及びJRバス通学費にかかる一部負担金について無償化を実施した。 自転車通学をする中学校の生徒に対しては、自転車損害保険への加入を促すとともに、保険加入に係る経費の補助を行った。 また、PTAや地域などの協力により登下校の見守り活動が実施できた。</p>	<p>○ 「きょうと食いく先生」や地域の人材活用を図り、地域の豊かな食材と食文化を学ぶとともに、校種間連携を行い、継続的・計画的に食育を推進した。</p> <p>○ 瑞穂中学生の作品が最優秀賞に選ばれ商品開発された。</p> <p>○ 通学費に係る保護者の負担軽減を図ることができた。また、地域ぐるみで子どもを見守る気運が高まった。</p> <p>○ 保険加入に係る保護者の負担軽減を行うことにより、自転車の安全な利用のために必要な自転車損害保険への加入を促進することができた。</p>	B

	<p>③ 通学路の安全点検の実施 町通学路交通安全プログラムに基づき、町通学路安全推進会議を開催し、通学路安全確保に向けた継続的な取組とともに通学路の安全点検を実施した。</p> <p>④ 健康診断の実施 学校保健安全法に基づく学校医、学校歯科医、薬剤師の配置、児童・生徒及び教職員の健康診断並びに安全管理、学校における環境衛生検査等を実施した。</p> <p>⑤ 学校歯科医と協議を重ね、平成 29 年度から全小中学校においてフッ化物洗口を実施した。 幼稚園においても平成 30 年度からフッ化物洗口を実施した。</p> <p>⑥ 安全管理 関係機関から提供された情報（熊、不審者等）を含め、学校・園に対して安全に関する情報を迅速に伝えた。また、気象警報発令時において、マニュアルにより臨時休校措置の対応を行った。</p> <p>⑦ 平成 30 年度より各校・園・保育所等において、「学校等欠席者・感染症情報システム」を本格運用し、学校、保健所、行政機関と連携してインフルエンザ予防対策を推進した。</p>	<p>○ 危険箇所について、各関係機関と連携しながら通学路の安全確保に向けた取組が実施できた。</p> <p>○ 健康診断及び環境衛生検査等を通じて、児童・生徒及び教職員の健康・安全が図れた。</p> <p>○ 平成 23 年度より全小学校において実施しており、一人当たりの平均むし歯数が減少する成果が表れている。 [参考] 1 人平均むし歯数（6 年生）</p> <table border="1" data-bbox="997 1093 1340 1236"> <tr> <td></td> <td>H23</td> <td>H29</td> </tr> <tr> <td>京丹波町</td> <td>0.89</td> <td>0.25</td> </tr> <tr> <td>京 都 府</td> <td>1.01</td> <td>0.64</td> </tr> </table> <p>○ 安全情報を迅速に流すことにより、児童・生徒・園児の安全が確保できた。</p> <p>● 気象警報が午前 6 時以降の早い段階で警報解除になった場合の休校の取扱いについて、検討を行っているが、登校手段の確保が課題となっている。</p> <p>○ 的確な指導と判断により、重症化や長期化を防止することができた。</p>		H23	H29	京丹波町	0.89	0.25	京 都 府	1.01	0.64
	H23	H29									
京丹波町	0.89	0.25									
京 都 府	1.01	0.64									

<p>(4) 学校管理（危機管理含む）の向上</p> <p>校園長主導の下、地域に開かれ信頼される学校づくりを目指した学校経営の取組を進める。</p>	<p>① 学校管理の徹底 管理職会議（校園長会議・教頭会議）を開催し、町の教育方針、共通理解事項や学校管理等に関する重要事項の徹底を図った。 平成 29 年度に発足した町内教頭会との連携を一層推進した。</p> <p>② 地域に信頼される学校づくり 校園長会議、教頭会議の管理職会議等の機会をとらえ、日常的な防犯対策等の安心安全の確保、情報管理や服務規律、コンプライアンスの徹底について注意喚起等を行った。</p>	<p>○ 校園長会議及び教頭会議を定期的に開催したことで教育委員会としての方針等を徹底するとともに、学校管理について注意喚起が図れた。</p> <p>● 地域に信頼される学校を目指し、学校管理について、管理職のみならず、全ての教職員に浸透させることが必要である。</p>	<p>B</p>
<p>(5) 教職員の働き方改革の推進</p> <p>教職員の勤務実態を把握し、現状を踏まえた時間外勤務の削減及び健康管理の方策等について検討を行い、具体的な業務改善を進める。</p>	<p>① 教職員の働き方改革検討委員会 校長、教頭、教育振興室をメンバーとした委員会を開催（6/6）し、教職員の働き方改革に向けて協議を行った。</p> <p>② 出退勤時刻記録システムの導入 職員の勤務時間を適正に把握するため、出退勤時刻記録システムを導入した。</p> <p>③ 部活動指導の指針策定 京都府部活動指針に基づき、町教育委員会において部活動指針を策定し、各中学校においても「部活動にかかる活動方針」を策定した。</p> <p>④ 勤務実態調査の実施 町立小・中学校に勤務する教職員の勤務実態の現状把握、分析等を行った。</p>	<p>○ 現状の把握や、業務改善に対する今後の方策等について共通理解ができた。</p> <p>○ システムに記録されたデータをもとに各校において時間外勤務是正のための取組を行っている。</p> <p>● 労働時間が一定時間（80h/月）を越えた職員に対し、医師の面接指導等の措置を講じる必要がある。</p> <p>○ 週 2 日の部活動停止日の設定等により教員の負担が軽減した。</p> <p>○ 教職員の勤務実態及び昨年度からの改善状況等について把握することができた。</p>	<p>B</p>

	調査期間:平成30年6月16日(土) ～6月22日(金)	● 昨年度調査より時間外勤務は減少しているが、長時間勤務が常態化しており、その是正や業務改善、負担軽減対策、教職員の意識改革等に係る取組の推進が必要である。	
--	---------------------------------	--	--

## 2 学力充実・個性伸長

項目	事業内容・実績・対象者	成果・課題等	評価
(1) 学習指導の徹底 知識・理解はもとより、自ら学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力などを育成するため、個に応じた指導方法の工夫改善に努める。また、その達成状況を評価・検証し、学習指導に努める。	<p>① 学校・園計画訪問 指導主事による計画訪問を1園(須知幼稚園)、学力向上に向けての支援訪問を1校(和知小学校)で実施し、授業改善等の指導助言を行った。</p> <p>② 学力に関わる学校・園訪問 京都府学力診断テストの結果を受けて、全ての学校・園の学力に係る訪問指導を実施した。 京都府や南丹教育局の指定校においては、必要に応じて訪問し、課題や対応策について指導助言した。</p> <p>③ 学力向上対策会議の開催 本会議のもとに「学びを育む京丹波町メソッド実践研究グループ」を立ち上げ、教育委員会と学校現場が協働して、メソッドを活かした授業改善を行った。</p> <p>④ 「学びを育む京丹波町メソッド」推進プロジェクトチームによる実践研究を積極的に推進した。</p>	<p>○ 各校・園で、実態・課題に即した教育課程を編成・実施することにより、授業時数を確保するとともに、授業改善が進んできた。</p> <p>○ 京都府学力診断テストの結果分析をもとに、2学期以降の学力にかかる取り組みの見直しを図り、各校の学力実態に応じた課題対応を図ることができた。</p> <p>○ 学力向上対策会議を2回開催し、本町の課題や進捗状況について議論し、「学びを育む京丹波町メソッド」の徹底を図ることができた。</p> <p>○ 実践研究グループによる管外視察(福井県福井市、永平寺町)や全小中学校の授業研究を通して、「めあて」から「振り返り」まで一貫した指導の在り方や、学びを育む環境づくりについて議論を深め、各校の指導の充実を図ることができた。</p>	B

	<p>⑤ 中学校ブロック別研修会 授業公開を中心にした研修会を各ブロック年間2回行った。</p> <p>⑥ 学力診断テスト等による学力実態の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力・学習状況調査（小6・中3）へ、全学校が参加した。</li> <li>・京都府学力診断テスト（小4・中1・中2）を実施した。</li> <li>・町独自の取組として、全小学校で標準学力調査（国語・算数）を実施した。</li> <li>・町独自の取組として、全中学校で標準学力調査等（国語・数学・社会・理科・英語）を実施した。</li> <li>・平成30年度全国学力・学習状況調査の結果から 小学校の国語A、国語Bはほぼ全国平均並みだったが、算数A、算数B、理科はやや課題が見られた。中学校の国語A、国語B、数学A、理科については、ほぼ全国並みだったが、数学Bはやや課題が見られた。</li> <li>・全小中学校でQUテスト（※）を実施した。（小学校は4年生以上） （※）一人ひとりについての理解と対応、学級集団の現状と今後の対応方法を把握するための心理テスト。</li> </ul> <p>⑦ 教務主任会議 各種学力調査の結果分析と、各校の学力上の課題解決に向けた取り組みについて協議した。 令和元年度末に導入予定の校務支援システムについて、その選定、導入に向け意見交換を行った。</p> <p>⑧ 京都丹波人材育成アドバイザー</p>	<p>○ 幼・小・中の教員が、授業のあり方や、指導の連続性について協議し、校種間連携が進んだ。</p> <p>○ 各種テストの結果、児童・生徒の学力実態を把握するとともに、各校の課題に応じた授業改善方策や、回復指導等の個に応じた指導に繋ぐことができた。</p> <p>● 全国学力・学習状況調査等から町内の児童生徒の学力は、おおむね全国平均程度と言えるが、引き続き算数、数学の学力にやや課題が見られるなど改善の余地がある。「学びを育む京丹波町メソッド」を柱に据えて授業改善に取り組み、算数、数学を中心とした学力向上を図る必要がある。</p> <p>○ 児童生徒の集団への適応状況を把握するための心理テストを行い、学級経営の改善点や個に応じた指導のための資料とした。</p> <p>○ 南丹教育局、学力向上担当者会議と連携し、府学力診断テストの結果分析、学力上の課題解決について協議。学力充実のためには、学校体制として明確な改善方針と学校の組織力をあげての取り組みが必要なことを学べた。</p>
--	---	--

	<p>による若手教員への「学びを育む授業づくり講座」を年間6回開催した。</p> <p>⑨ 小学校個別補充学習「ジュニアわくわくスタディ」(4・5年生)を丹波ひかり・瑞穂・和知小学校で実施した。</p> <p>⑩ 中学校1年生集中基礎学習「振り返りスタディ」事業、中2学力アップ集中講座、中学校全学年「チャレンジ学習事業」を実施した。</p> <p>⑪ 校内研修の充実のため、指導主事による要請訪問を実施した。</p> <p>⑫ 教育実践推進校等の指定研究に取り組んだ。          学力向上システム開発校          ・蒲生野中学校          (公開授業研・研究発表)          京都丹波の研究指定校          ・丹波ひかり小学校(新教育課程に係る調査研究)          町指定研究の実施          ・須知幼稚園(認定子ども園に向けた調査研究)          ・竹野小学校(学校を核とした地域創生事業)          ・下山小学校・瑞穂中学校(「学び</p>	<p>○ 11名の受講者を対象に「学びを育む授業づくり」をテーマとした研修会、授業研究会を開催し、児童生徒の主体的な学びを実現するための授業改善に向け、研修を深めることができた。</p> <p>○ 「学びを育む授業づくり通信」を5回発行し、実践をまとめるとともに、授業づくりの成果を広めることができた。</p> <p>○ 参加児童は、「わからない」「できない」から「できる」ことが増えたことを実感し、意欲的に学習に取り組むようになった。</p> <p>○ 学習意欲の向上につながり、基礎的な学力の定着と向上が図れた。</p> <p>○ 各校の課題に応じた指導助言をすることができた。</p> <p>○ 学力向上システム開発校をはじめとする研究や研究発表会を通して、「学びを育む京丹波町メソッド」を授業改善の基盤とした研究活動を推進した。          研究計画や研究内容について学び合い、自校の授業改善の見直しを図った。</p> <p>○ 中学校教員による小学校での専科指導により、小学校での学習指導が充実するとともに、教職員の児童理解の深化、ま</p>	
--	---	---	--

	<p>を育む京丹波町メソッド」推進におけるICT活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・瑞穂小学校(小学校英語教育推進)</li> <li>・和知小学校・和知中学校(小中一貫教育を指向した研究)</li> </ul> <p>⑬ 丹波ひかり小学校で、京都美術工芸大学とのパートナースクール事業を実施した。</p> <p>⑭ 町単費支援員等を配置した。 学習支援員等：小学校15人 中学校11人</p> <p>⑮ 学校図書の実充及び全小中学校に読書指導員(8人)を配置した。</p> <p>⑯ 小学校外国語活動の実施にあたり、中学校英語担当が小学校で指導するなど、小・中の連携を図った。</p>	<p>た、中学校入学時の円滑な連携につながった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大学との連携と専門的な指導により、美術・工芸への関心を高めることができた。</li> <li>○ 町単費支援員等の配置によるきめ細かな支援により学習の定着や学習意欲の向上等が図れた。</li> <li>○ 読書指導員の配置により、児童・生徒の読書意欲の向上等が図れた。</li> <li>○ 小学校外国語、外国語活動の全面実施に向け、準備を進めるとともに、中学校での授業への接続に向けた取り組みができた。</li> </ul>	
<p>(2) 進路指導の実充と就学機会の保障</p> <p>児童生徒が自らの生き方を考え、将来を展望できるよう教育活動全体を通して、組織的・計画的・継続的な進路指導を推進する。</p>	<p>① 進路希望調査等の実施 中学3年生を対象に学期毎の進路希望調査、学力実態調査、進路面談等を実施し、生徒の状況把握に努めた。</p> <p>② 体験学習の実施 望ましい職業観や勤労観を身に付けるため、全小学校(4年生等)及び中学校(2年生)で体験学習を実施した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 適切な情報提供を行い、個に応じた進路選択が実現した。 高校等への進学率は98.2%。 (107人/109人) *1年後に通信制高校の受験を目標としている生徒1名、高校卒業認定試験に向け自宅で学習している生徒1名。</li> <li>○ 各事業所の協力を受けて、円滑かつ充実した体験学習が実施できた。</li> </ul>	A

	<p>③ 経済的な理由により就学が困難な児童生徒に対し、学用品費・学校給食費等を支給し、安定した就学を保障するための支援を行った。</p> <p>小学校 99 人、中学校 61 人</p> <p>④ 経済的な理由により就学が困難な児童生徒に対し、就学前支給を実施した。</p> <p>小学校 11 人、中学校 16 人</p> <p>⑤ 経済的理由により就学困難な高校生・大学生等に対し育英資金を支給した。</p> <p>大学生 13 人      専門学校生 6 人      高校生 18 人      高等専門学校 1 人</p>	<p>○ ニーズにあった就学援助を行うため、適宜、認定基準の見直しを行い運用している。</p> <p>○ 新入学準備のため、従来より支給時期を早め、ニーズにあった就学援助が実施できた。</p> <p>○ 勉学意識が高いにもかかわらず、経済的な理由により就学が困難な高校生及び大学生の就学機会の確保につながった。</p>	
<p>(3) 特別支援教育の充実</p> <p>障がいのある児童・生徒の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進、交流及び共同学習の推進を図る。</p> <p>支援を要する児童・生徒を的確に把握し、関係機関と連携しながら適切な就学指導に努める。</p>	<p>① 全小・中学校に特別支援学級を設置し、個別の指導計画及び教育支援計画作成状況についての把握と助言を行った。</p> <p>② 町内2会場において「子ども交流会」を開催し、交流と共同学習を推進した。(8月1日実施)      (参加者の合計 154名)      [開催場所]      ・山村開発センター(瑞穂中学校ブロック)      ・和知ふれあいセンター(和知中学校ブロック)      ・蒲生野中学校ブロックは、会場の体育館の気温が高く、中止し</p>	<p>○ 全小・中学校において個別の指導計画作成のもとに実践化ができています。個別の教育支援計画が作成できた。</p> <p>● 通常の学級に在籍している支援を要する児童・生徒の個別の指導計画の充実・実践化が継続して必要である。</p> <p>○ 支援を必要とする子ども等との交流を通じて、相互理解を深めることができました。今後も取組を継続していくために、より充実した交流内容について検討を進める。</p>	B

	<p>た。</p> <p>③ 就学支援・教育相談の推進のため、町教育支援委員会及び特別支援教育コーディネーター会議を開催した。</p> <p>④ 教育支援委員会便りの全戸配布を行った。</p> <p>⑤ 丹波ひかり小学校において、通級指導教室を2学級開設している。</p>	<p>○ 関係機関等との連携を強化し、就学後も含めた組織的・計画的、継続的な相談支援を推進することができた。</p> <p>○ 通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童・生徒への支援の在り方について研修を深めることができた。</p> <p>○ 教育支援委員会便りの全戸配布により、子ども交流会や通級指導教室、特別支援に係る相談事業等について啓発することができた。</p> <p>○ 教材備品の充実を進め、課題のある児童への指導環境がより充実した。</p> <p>● 中学校のニーズに対応するため、学級の増設が必要である。</p>	
<p>(4) 幼稚園教育の推進</p> <p>幼児の豊かな心身の発達を促すため、教育目標を明確にし、幼児の実態や地域社会の実情に即応した特色ある園づくりに努める。</p>	<p>① 特色ある園づくりとして、研究主題に基づく実践を推進する中で、保幼小中連携保育研究会や園評価事業等に取り組んだ。</p> <p>② 京都府公立幼稚園・こども園教育研究会、平成28・29年度研究指定園の取組を継続推進した。</p>	<p>○ 保幼小中連携保育研究において、積極的に指導・支援ができた有意義な研究発表会が開催できた。</p> <p>○ 研究主題に基づき、指定研究の取組を継続し、充実することができた。</p> <p>○ 幼稚園教育要領、保育所保育指針及び小学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、円滑な接続が図れた。</p>	A

	<p>③ 町全域で「もうすぐ1年生事業」に取り組み、保・幼・小の連携、接続を図った。</p>	<p>○ すべての就学予定児を対象に実施し、保・幼・小の連携強化が図れた。</p> <p>○ 就学指導において、幼稚園、保育所の連携が図れた。</p> <p>○ 全小学校において、スタートカリキュラムを作成することができた。</p> <p>○ 幼稚園において、アプローチカリキュラムが作成された。</p>																					
<p>(5) 認定こども園の開設準備</p> <p>就学前児童の健やかな育成支援を進めるため、幼稚園と保育所の良さを活かした「幼保連携型認定こども園」の設立に向けた取組を進める。</p>	<p>① 認定こども園開設準備委員会、専門部会を設置し、開設にあたっての課題や調整すべき基本的事項の検討、解決に向けた調査・研究を行った。</p> <table border="0"> <tr> <td>開設準備委員会</td> <td>6回</td> </tr> <tr> <td>課程作成部会</td> <td>5回</td> </tr> <tr> <td>運営協議部会</td> <td>4回</td> </tr> <tr> <td>統合検討部会</td> <td>1回</td> </tr> </table> <p>【参考】京丹波町子ども・子育て審議会の開催状況</p> <table border="0"> <tr> <td>審議会（全体）</td> <td>3回</td> </tr> </table> <p>② 職員研修、先進地視察を実施するとともに、専門家による各園等の訪問指導研究、自主的な運営を目指すため、ワークショップ形式の研修を行った。</p> <table border="0"> <tr> <td>職員研修（全体）</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>先進地視察</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>訪問指導研究（各園）</td> <td>4回</td> </tr> <tr> <td>管理職研修</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>ワークショップ研修</td> <td>4回</td> </tr> </table>	開設準備委員会	6回	課程作成部会	5回	運営協議部会	4回	統合検討部会	1回	審議会（全体）	3回	職員研修（全体）	2回	先進地視察	1回	訪問指導研究（各園）	4回	管理職研修	1回	ワークショップ研修	4回	<p>○ 「町立認定こども園開設に係る基本計画」に基づき、認定こども園における教育課程、年間指導計画の作成、一時預かり事業、保護者負担品目の統一方針、認定区分における定員設定の考え方等について調整し、審議会等への報告を行うことができた。</p> <p>○ 認定こども園に関する理解を深めるとともに、職員の共有認識を育むことができた。</p> <p>他園（町外）の保育現場を年齢別に視察し、望ましい教育保育活動や、園内連携について協議することで、自園での取り組みへの反映や、意思統一が図れていた。</p>	A
開設準備委員会	6回																						
課程作成部会	5回																						
運営協議部会	4回																						
統合検討部会	1回																						
審議会（全体）	3回																						
職員研修（全体）	2回																						
先進地視察	1回																						
訪問指導研究（各園）	4回																						
管理職研修	1回																						
ワークショップ研修	4回																						

	<p>③ 新園舎建設に向けた取組 設計業務（基本設計業務、地質調査業務） 関係機関との事前調整（既存園舎、公園占用等）</p>	<p>○ 基本設計業務等について、新園舎基本計画に基づき、現場職員のヒアリングや部会での検討を行い、工期内の完了ができた。</p>	
--	---	---	--

### 3 人間性を育む教育

項目	事業内容・実績・対象者	成果・課題等	評価
<p>(1) 道徳教育の充実</p> <p>豊かな人間性を育む道徳教育を、教育活動全体を通じて推進し、児童生徒一人ひとりに確かな道徳的実践力を育成する。</p>	<p>① 道徳教育推進計画の検証と助言を行った。</p> <p>② 道徳の教科化に伴い、「道徳の時間」の充実に向けて「私たちの道徳」「京の子ども明日へのとびら」等の資料を活用して指導を行った。</p> <p>③ 道徳的実践力を培うため、体験を伴う教育活動を指導・推進した。</p>	<p>○ 各校において全体計画・年間指導計画が作成でき実践することができた。</p> <p>○ 道徳の教科化に伴い、職員研修の充実を図った。</p> <p>○ 各校とも、「私たちの道徳」「京の子ども明日へのとびら」を授業で活用することにより豊かな人間性を育む道徳教育の一層の充実を図る指導ができた。</p> <p>○ 各教科等との関連を持たせた指導や、地域や児童生徒の実態に応じた特色ある指導が進められた。</p> <p>○ 学校・家庭・地域総がかりで育む心の教育を進めるため、保護者や住民対象の「道徳」の公開授業が定着した。</p>	A
<p>(2) 人権教育の充実</p> <p>本町の人権教育方針を踏まえ、人権を尊重し、差別を許さない人権教育の推進を図る。</p>	<p>① 人権教育推進計画の検証と助言を行った。</p>	<p>○ 各校で実態・課題に対応した全体計画・年間指導計画を作成し、それに基づいた実践が図れた。</p>	A



	<p>組等の交流を行った。</p> <p>⑤ 全小・中学校において非行防止教室を実施した。</p> <p>⑥ 「いじめをなくす京丹波町子ども宣言」に基づき、各校での取り組みを行った。</p>	<p>校の児童・生徒の指導に活かすことができた。</p> <p>○ 児童・生徒の意識向上を図ることができた。</p> <p>○ 各校で「子ども宣言」に基づく取り組みが展開され、児童・生徒のいじめに対する認識が醸成された。</p>	
<p>(4) 文化・スポーツの推進</p> <p>芸術文化活動に親しむ態度、心情を育てるとともに、地域社会との連携を図る。</p> <p>また、運動することの楽しさや喜びを味わうとともに各種大会への参加を促す。</p>	<p>① 全小中学校において、町外から招聘した劇団等による芸術鑑賞を実施した。</p> <p>② 地域に根ざした伝統文化にふれ、継承する心を育てる取り組みを進めた。</p> <p>③ 南丹地区及び南・船地区の小学生駅伝に参加した。</p> <p>④ 中学校クラブ活動において、外部指導者の活用も含め、専門性の高い指導を実施した。</p> <p>⑤ 小中学校における、持久走の取り組みや駅伝競走大会への参加をはじめ、丹波自然運動公園施設の積極的な活用により、体力向上の取組を進めた。</p>	<p>○ 生の演劇等に触れることにより、豊かな心の醸成につながった。</p> <p>○ 太鼓や浄瑠璃などの伝統芸能に対する理解と継承意欲が高まるとともに、各行事において取組の成果を披露し、高い評価を受けた。</p> <p>○ 出場選手だけでなく、練習に取り組んだ児童の走力向上と仲間づくりが図れた。</p> <p>○ 全国大会への出場や競技技術、意欲の向上につながった。 (全国大会出場：蒲生野中学校男子ホッケー部、女子ホッケー部、瑞穂中学校男子ホッケー部、女子ホッケー部(全国3位))</p> <p>○ 蒲生野中学校・瑞穂中学校のホッケー部が京都トレーニングセンターにおいて専門的な指導を受け、技術・意識の向上につながった。</p>	A

#### 4 社会の変化に対応する教育

項 目	事業内容・実績・対象者	成果・課題等	評価
<p>(1) 国際理解教育の充実</p> <p>わが国の文化と伝統を理解・尊重するとともに、ALT事業や国際交流事業等を活用し、諸外国の文化や伝統を理解・尊重する態度を育成する。</p>	<p>① 中学校にALT（2人）を配置し、外国語学習を推進した。</p> <p>併せて、小学校にALTや外国語支援員等を派遣し、国際理解教育を推進した。</p> <p>② 瑞穂小学校を京丹波町教育委員会指定「英語教育実践推進校」とし、外国語活動の研究を進めた。</p> <p>③ 和知中学校、蒲生野中学校の英語教員が、校区内小学校と連携し、外国語活動に取り組んだ。</p> <p>④ 急速なグローバル化に対応した外国語コミュニケーション能力育成を図り、英語検定資格取得の推進を図るため、町独自の英語検定（京丹波町中学校英語検定 KEYS＝Kyotamba English-test for Your Success）を導入した。</p>	<p>○ ALT等の配置により町内での英語教育や外国語活動が充実した。</p> <p>○ 中学校における国際理解を推進し、国際化・情報化時代に対応できる人材の育成ができた。</p> <p>○ 新学習指導要領への移行を見据えて、中学校への接続について共通理解を図れた。</p> <p>● 新学習指導要領完全実施を見据えて、小中接続の一層の充実、小学校英語における評価の研究及び中学校英語における指導と評価の高度化の研究を推進する必要がある。</p>	B
<p>(2) 環境教育の推進</p> <p>環境問題に対する関心を高め、実践活動に結びつく能力を育成する。</p>	<p>① 環境問題を「総合的な学習の時間」等で行い、意識の向上に努めた。</p> <p>② 森林について学習を進め、各行事への参加等を通じて、森林環境に対する知識と意識の向上を図った。</p> <p>③ 南丹保健所と連携したICTを活用した環境教育の推進事業に和知小学校と下山小学校で取り組んだ。</p>	<p>○ 各校におけるエコ活動を家庭や地域に発信できた。</p> <p>○ 各校で放射線に関する学習を含む森林・環境学習が積極的に取り組まれた。</p> <p>○ 下山小学校では、保健所との連携事業により、SDGs（Sustainable Development Goals「持続可能な開発目標」）について学ぶことができた。</p>	A

<p>(3) 情報教育の推進</p> <p>児童・生徒の発達段階に応じ、情報手段を主体的に活用する能力を育成するとともに情報モラルの指導に努める。</p>	<p>① 校務系システム機器更新等に係る調整会議を実施した。(年2回)</p> <p>② 学習系パソコン等の機器更新を行い、タブレット端末を整備したことにより、主体的、対話的で深い学びの具体化に向け、より良いICT環境が整備できた。</p> <p>③ 小中学校の教職員に対して、教育情報セキュリティ研修の実施やホームページ運用についての情報提供を行った。</p> <p>④ 児童・生徒を対象とした研修会の開催等により、情報モラルの指導・助言を行った。</p>	<p>○ 校務系システム機器更新及び校務支援システムの導入についての調整が図れた。</p> <p>○ パソコン教室だけでなく、場所を選ばずタブレット端末を利用できることで、多様な教科へのICT活用が可能となった。</p> <p>○ 学校において安心してICTを活用できるよう、セキュリティ向上に取り組めた。</p> <p>○ 学校における指導やPTAの研修を通じて、家庭を含めた児童・生徒の情報モラルの向上が図れた。</p>	<p>A</p>
<p>(4) 土曜日を活用した教育の研究</p> <p>土曜日を活用した効果的な教育活動の実施に向けた研究を行う。</p>	<p>① 「土曜日を活用した教育の在り方実践研究事業」(府指定事業)により、全小中学校(指定校:下山小学校、実践校:他の小中学校)において土曜日を活用した取組を行った。</p>	<p>○ 地域・PTAと連携した行事や学力の補充などに取り組むことにより、より広く学校の様子を知ってもらうとともに、児童生徒の学習に向かう意欲の高揚に結びつけることができた。</p>	<p>A</p>
<p>(5) 少子化等の課題に対応した教育の研究</p> <p>少子化の進行による児童・生徒数の減少や、社会情勢の変化に対応し、本町の特色を生かした教育の研究を進める。</p>	<p>① 少子化などの社会状況の変化に対応した学校教育のあり方を研究するための指定校をおくなどの取組を進めた。</p> <p>② 小中学校と地域とが連携する事業や中学校と須知高校の連携を深める「食育環境パートナーズスクール事業」等を充実させた。</p>	<p>○ 小中学校間で授業、学校行事及び教職員研修等の連携が進み、児童生徒の学びをより深めるとともに、教職員の意識を課題に繋げることができた。</p> <p>○ 小中学校と地域や須知高校との間で互いに学び合いや連携がいっそう進んだ。</p>	<p>B</p>

	<p>③ 「首長部局との協働による新たな学校モデルの構築事業」(町単費事業)により、首長部局と学校・地域との協働に取り組み、地域の活性化や少子化への対応について協議・検討した。</p>	<p>○ 首長部局・学校・地域関係者による学校説明会を実施し町外の方に京丹波町への関心を向けることができた。</p> <p>○ 地域や町外の人に京丹波町内の学校を紹介するリーフレットを作成できた。</p> <p>● 本町の特色を生かした取組を一層進め、活性化や少子化対策に繋がるよう、全町的に充実させていくことが必要である。</p>	
--	--	--	--

## 5 教育環境の整備

項 目	事業内容・実績・対象者	成果・課題等	評価
<p>(1) 学校施設の整備促進</p> <p>安全・安心な教育環境を目指して施設整備等に取り組む。</p>	<p>① 幼稚園及び小中学校の施設及び備品について141件の修繕、改修を実施し、より良い教育環境及び安全・安心な施設整備に努めた。</p> <p>② ブロック塀等調査 大阪府北部地震(6/18)によるブロック塀倒壊事故を受け学校施設におけるブロック塀等調査を6月21日に実施した。</p>	<p>○ 安全、適切な教育環境の整備を推進した。</p> <p>● 設備・備品の老朽化に伴い多くの修繕が必要となっている。計画的な対応が必要である。 [参考] 平成27年度：153件 平成28年度：159件 平成29年度：126件</p> <p>○ 建築基準法上、問題となるブロック塀は存在しなかったが、蒲生野中学校テニス用練習板に控壁がなかったことから学校と協議の上、8月10日に撤去を行った。</p>	B

<p>(2) 学校給食の運営</p> <p>地元産食材を生かし、安全安心でバランスのとれた学校給食を安定して提供する。</p>	<p>① 学校給食の充実</p> <p>全小・中学校において児童生徒の健康や成長を支える学校給食の充実を図り、京丹波町産、京都府産の食材を積極的に使用した。また、安全安心な給食を安定して提供できるよう財源確保に努めた。</p> <p>② 安全な学校給食の提供</p> <p>全小・中学校における食物アレルギー対応の指針となる「京丹波町食物アレルギー対応マニュアル」に基づき対応食を提供した。</p>	<p>○ 全小・中学校で地元食材を活用した学校給食を提供することができた。</p> <p>● 就学援助費の学校給食費の現物給付により、徴収率が向上したが、給食費の未納に対し、引き続き徴収強化を図る必要がある。</p> <p>○ 食物アレルギーにおける緊急時の対応等を定めることにより、より安全な環境づくりを進めることができた。</p> <p>● 学校給食調理員からノロウイルスの陽性反応が検出されたため、ノロウイルス等の対応マニュアルに基づき、安全性を確認するまでの間、給食を停止した。 停止期間 2/7～2/12 (3日間)</p>	<p>B</p>
---	---	---	----------

## II 生涯学習

### 1 生涯学習・社会教育の振興

項 目	事業内容・実績・対象者	成果・課題等	評価
<p>(1) 社会教育委員活動の充実</p> <p>京丹波町の社会教育に関する諸計画の立案、会議の開催を行う。</p> <p>また、教育委員会の諮問に応じ、研究調査を行い、意見を述べる。</p>	<p>社会教育法第 17 条に基づき京丹波町の社会教育に関し、教育長を経て教育委員会に助言するため、社会教育に関する計画立案、会議の開催、教育委員会の諮問に対しての研究調査を行う。委員 12 名。</p> <p>① 社会教育委員会議 4/24、5/31、7/25、9/25、2/1</p> <p>② その他会議等 ・南丹地区協議会役員会 3 回開催 ・京都府協議会主催総会開催 ・全国研究大会に参加</p> <p>③ 子ども見守り活動 ・丹波ひかり小学校（毎月 19 日） ・下山小学校（毎月 5 日） ・竹野小学校（毎月 25 日） ・瑞穂小学校（毎月 10 日） ・和知小学校（毎月末）</p> <p>④ 双葉町交流事業 双葉町との子ども交流会や文化交流事業において、双葉町の現状や復興計画を生徒やより多くの町民に理解してもらうため、切り絵はがきプロジェクトの取組を通して推進した。 6月7日 和知中学校 7月3日 瑞穂中学校 7月12日 蒲生野中学校 7月17日 須知高校</p>	<p>○ 実践する社会教育委員として、その取組は全国でも評価を受けている。</p> <p>○ 町が実施する社会教育事業に対し、その計画・立案について指導、助言を行うと共に、京都府等が実施する研修会や研究大会に積極的に参加し、研鑽を深めた。</p> <p>○ 実践する社会教育委員としての活動であり尊い活動である。</p> <p>○ 人的・物的支援を核とする交流から、双葉町を常に近くに感じることが出来る、心の交流へと移行する土台作りができた。</p>	A
<p>(2) 生涯学習の推進</p> <p>町民の生涯学習の要望にこたえるため、学</p>	<p>① いきいき大学（高齢者講座） 「いきいき大学・ひまわり学園合同開講式・絵本のお話」「コミュニケーション講座」「文学講座」「シ</p>	<p>○ 「いつでも、だれでも、どこでも」学ぶことができる機会づくりの提供として、高齢者、障がい者などの対象者別</p>	B

<p>校教育機関や他の行政機関及び社会教育団体等との連携を図り、町内の教育施設や教育資源を活用し、生涯の各時期に応じた学習機会・内容の充実に努める。</p>	<p>ルバーオリンピック」「体を動かす健康講座」「創作教室（切り絵）」「いきいき大学・ひまわり学園合同閉講式、講演：映画の楽しみ方教えます」（7講座開催）          学生数 47人          年間延べ参加者数 256人</p> <p>② ひまわり学園（障がい者講座）          「いきいき大学・ひまわり学園合同開講式・大人も楽しめる絵本のお話」「人権映画会」「社会体験学習」「人権講演会」「いきいき大学・ひまわり学園合同閉講式、「“映画芸術論”への招待」（5講座開催）          学園生数 24人          年間延べ参加者数 84人（付添等含む）</p> <p>③ 人権啓発推進事業          7/12 人権啓発推進協議会総会（和知ふれあいセンター）          8/4 人権強調月間街頭啓発活動（道の駅「京丹波味夢の里」「丹波マーケス」「瑞穂の里さらびき」「和」等）          8/4 人権映画会（和知ふれあいセンター）          「彼らが本気で編むときは」</p>	<p>課題に対応した講座や教室を開催することができた。</p> <p>○ 高齢者が楽しく交流を深めながら学習できる場を設けることができた。</p> <p>● 参加者を地域別で見ると偏りがあり、開催場所への交通手段や受講者のニーズにあった講座の開催等の課題がある。</p> <p>○ ひまわり学園については、各種講座等において、参加者の希望も取り入れつつ、障がいの種類にも配慮し、互いを大切に励ましあって、一体感を持ちながら、楽しく学ぶことができた。</p> <p>● 継続の要望があるものの、参加者は、高齢化等によって減少傾向にある。参加者は、固定的であることから、広く浅く方法論的にやることもあれば、学びの目標深度を深めた講座、さらに横の連携が深まる講座等を考慮し、生きがいつくりとなる講座とする必要性がある。</p> <p>○ 町及び教育委員会並びに人権啓発推進事業の3者が連携・協働して人権映画会、人権講演会等の人権啓発事業を実施した。</p> <p>○ 「部落差別の解消の推進に関する法律の推進に関する法律」への理解を深めるため、指導者研修会として人権教育・啓発推</p>
--	---	--

	<p>参加者：112人</p> <p>8/1～31 人権強調月間／人権啓発のぼり旗の町内一斉掲示</p> <p>12/1 人権週間街頭啓発活動 (道の駅「京丹波味夢の里」「丹波マーケス」「瑞穂の里さらびき」「和」等)</p> <p>12/1 人権講演会 (山村開発センター) ”つながる笑顔、つながる心” 和知中学校生徒会の発表 「一笑懸命」を合言葉にした和知中学校の生徒会活動や学習の様子を紹介 講演「心のバリアをはずして」 講師：中野佐代子氏 (NHKEテレ 手話教室キャスター)</p> <p>参加者：99人</p> <p>12/4～10 人権週間／人権啓発のぼり旗の町内一斉掲示</p> <p>1/22 人権教育・啓発推進研修会 (山開発センターみずほ) 講演 「このまちが好きだから～被差別の歴史をもつまちに生まれて～」 講師 崇仁発信実行委員会 代表 藤尾まさよ氏</p> <p>参加者：85名</p> <p>3/12 管外視察研修 立命館大学国際平和ミュージアム ※ボランティアガイドによる説明 人権フィールドワーク(岡崎コース) ※穀雨企画室 渡辺毅先生 参加者9名</p> <p>通年 各区・自治会・団体・事業所等自主研修54回 1,258人</p>	<p>進研修会を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各区・自治会での実施率は5割程度で、研修実施、未実施の固定化が見られた。また若い世代の参加を増やしていく工夫も大切であり、さらなる拡大のためには、研修サポーターの設置等、支援体制の構築が必要である。</li> <li>● 「人権3法」(「部落差別の解消の推進に関する法律」「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」)の施行を受け、人権教育・啓発の一層の推進が課題である。</li> </ul>	
--	--	--	--

	④ TOMORROW（生涯学習通信）の毎月の発行	○ 社会教育事業の目的や実施内容を広く町民の方に周知し、生涯学習の情報を積極的に提供した。	
<p>(3) 社会教育団体等の育成</p> <p>社会教育団体や公民館サークル登録団体、その他のグループによる自主的な活動、新たな活動の立ち上げ等を支援・促進する。</p>	<p>① 公民館事業</p> <p>・公民館サークル登録団体及び文化協会加盟団体の活動促進・支援のため、施設充実と使用料減免を行い、利用促進を図った。</p> <p>中央公民館 利用数延 476 団体      桧山公民館 利用数延 202 団体      梅田公民館 利用数延 116 団体      三ノ宮公民館 利用数延 52 団体      質美公民館 利用数延 88 団体      和知ふれあいセンター      利用数延 238 団体      和知生涯学習センター      利用数延 13 団体</p> <p>② 公民館地域活動事業</p> <p>瑞穂地域の4公民館で独自の生涯学習事業やサークル活動を行い地域の交流・文化振興等を図るための支援及び助言を行った。</p> <p><b>【桧山公民館】</b></p> <p>・社会見学会 6月      ・みずほ夕涼み大会 8月      ・敬老会 9月      ・桧山地区体育大会 10月      ・歩こう会 11月      ・芸術鑑賞 2月</p> <p><b>【梅田公民館】</b></p> <p>・人権学習 6月      ・納涼大会 8月      ・梅田地区運動会      (中止) 10月</p>	<p>○ 公民館や社会教育施設を拠点として、自発的に展開されている文化協会加盟団体や公民館サークル登録団体及び社会教育団体の支援を行うことにより、活動の促進が図れた。</p> <p>○ 公民館地域活動事業の内容について、委託契約と照らし合わせ事業確認を行った。</p> <p>○ 瑞穂地域各公民館で開催した公民館地域活動事業は、地域に密着し、多世代が学び交流するという生涯学習事業としての展開ができた。</p> <p>● 瑞穂地域の公民館地域活動事業に関して、地域振興団体等との連携が進んでいるが、町全体で今後の有り方について検討する必要がある。</p>	B

	<p><b>【三ノ宮公民館】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフトバレーボール大会 6月</li> <li>・泥んこバレーボール大会 (中止) 8月</li> <li>・敬老会 9月</li>   <li>・三ノ宮地区運動会 (中止) 10月</li> <li>・三ノ宮ふれあい祭り 11月</li> <li>・社会見学会 2月</li> </ul> <p><b>【質美公民館】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者学級・体力づくり 6月</li> <li>・社会見学会 6月</li> <li>・グラウンド・ゴルフ大会 7月</li> <li>・食育教室 7月</li> <li>・高齢者学級・人権研修会 7月</li> <li>・真夏の夕べ 8月</li> <li>・質美地区運動会 (中止) 10月</li> <li>・ふれあいまつり 11月</li> <li>・食育教室 12月</li> <li>・文化探訪の旅 3月</li> </ul> <p>③ 社会教育団体等育成事業 社会教育関係団体等に補助金を 交付等の支援及び助言を行った。</p> <p>京丹波町女性の会 京丹波町文化協会 和知民芸保存会 丹波音頭愛好会 京丹波町青少年育成協会 京丹波町人権啓発推進協議会 京丹波町体育協会 京丹波町スポーツ少年団</p>	<p>○ 社会教育団体に補助金交付 や助言を行うことにより活動 の促進が図れた。</p>	
<p>(4) 図書活動の充実</p> <p>多様な生涯学習のニ ーズに対応できるよう 公民館設置の各図書室</p>	<p>① 公民館図書活動事業</p> <p>町内6図書室開室</p> <p>中央公民館図書室</p> <p>利用者数 延3,655人</p> <p>貸出冊数 13,684冊</p>	<p>○ 6図書室とも、利用者の希望 を一定考慮した蔵書・資料の充 実が図れた。</p>	<p>B</p>

<p>(6箇所)における蔵書・資料および運営の充実により利用促進を図るとともにボランティア団体(読み聞かせ等)の活動を支援する。</p>	<p>和知ふれあいセンター図書室 利用者数 延 1,125 人 貸出冊数 3,678 冊</p> <p>山村開発センター図書室 利用者数 延 952 人 貸出冊数 2,382 冊</p> <p>梅田公民館図書室 利用者数 延 99 人 貸出冊数 152 冊</p> <p>三ノ宮公民館図書室 利用者数 延 209 人 貸出冊数 351 冊</p> <p>質美公民館図書室 利用者数 延 232 人 貸出冊数 1,170 冊</p> <p>② 図書室の充実に向けた検討会議 図書室職員と社会教育委員による会議を行い、町内図書室の充実に向けた検討を行った。 (5/30、10/31)</p> <p>③ 図書施設視察研修 図書室職員と社会教育委員により今後の本町の図書室の充実を図るため、他市町の図書施設の視察を行った。(9/20)</p>	<p>○ 公民館ごとの図書室の開室により、地域に根ざした図書活動事業が展開できた。</p> <p>● 施設、設備面に行き届いていない部分があるため、サービスの向上を図るためにも、設備等の均一化を図る。</p> <p>○ 6図書室の担当者が集い、今後の図書室の充実を考えていく会議を開催し、活発な協議が図れた。</p> <p>○ 図書室職員と社会教育委員の意見交換、他市図書施設の視察など、平成31年度に向けての具体的な取り組みを検討することができた。</p>	
--	---	---	--

## 2 文化の振興と文化財保護

項目	事業内容・実績・対象者	成果・課題等	評価
<p>(1) 文化の振興</p> <p>豊かな人間性をはぐくむため、地域の自然・文化・歴史などを深く理解し、伝統文化・遺産を守り、継承発展に努める。</p> <p>また、優れた芸術文</p>	<p>① 文化協会活動支援事業 「京丹波町文化祭」 〈展示の部〉 開催日／11月10日～12日 場所／山村開発センターみずほ 出展／16団体 〈ステージの部〉 開催日／11月11日 場所／山村開発センターみずほ</p>	<p>○ 文化協会と町との共催により、加盟団体以外の団体の参加があった。展示では社会教育委員会やふるさと体験資料館運営委員による体験コーナーを設けるなど、町を挙げての取り組みとなった。また、文化協会の主体的な取り組みによって文化祭が開催できた。</p>	<p>B</p>

<p>化にふれる機会の提供に努めるとともに京丹波町文化協会や文化団体の活動を支援・促進する。</p>	<p>出 演／22 団体</p> <p>② ふるさと体験資料館運営事業 ふるさと体験資料館運営委員（8人）により、本町に伝わる生活様式・民具の生活文化資源の保存・活用を行った。 ・「ふるさと人形展」開催（4/1～4/8） 参加者数 806人 ・「布ぞうりづくり体験」（8/5・8/6） 参加者数 55人 ・「しめ縄づくり体験会」（12/23） 参加者数 90人</p> <p>③ 平成30年京丹波町文化賞 会場：中央公民館 内容：文化賞1団体 文化功労賞1名 文化奨励賞1名 輝き賞10人</p>	<p>● 会員の高齢化や指導者不足などの理由で活動が停滞したり、文化協会を退会される団体がみられた。</p> <p>○ 各種体験会が世代間・地域間交流の場として大きな成果があった。</p> <p>○ 研修会を行い委員としての活動が活発化した。</p> <p>● 委員の高齢化もあり、新しい委員の人材確保が課題である。</p> <p>○ 文化賞の表彰により、町民の文化に対する意欲、関心を高め、郷土愛の涵養を図ることができた。</p>	
<p>(2) 文化財の保護</p> <p>伝統文化の保存・継承活動を支援し、次代へと継承する。</p> <p>また、数多く存在する歴史的・文化的資産等の貴重な地域資源は、調査・保護対策を進め大切に保存するとともに文化教育、交流活動に積極的な活用を図る。</p>	<p>文化財の現状</p> <p>国指定重要文化財 7件 府指定・登録・決定（環境保全地区） 26件 府暫定登録文化財 5件 町指定文化財 47件</p> <p>① 文化財保護 町内文化財防火査察</p> <p>② 伝統文化継承団体の支援</p> <p>③ 子ども和知太鼓教室の開催支援</p>	<p>○ 文化財防火査察の実施によって防火意識が向上した。</p> <p>○ 子ども和知太鼓教室は京のまなび教室推進事業に位置づけて実施した。</p>	B

	<p>④ 社寺等文化資料保全補助事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中畑城案内看板修繕（中畑）</li> <li>・【曳山】太鼓山水引幕修繕（辻）</li> <li>・細谷観音堂窓修繕（細谷）</li> <li>・質美八幡宮本殿修繕（質美八幡宮）</li> <li>・大締平太鼓修繕（丹波八坂太鼓保存会）</li> </ul> <p>⑤ 文化財保護普及啓発事業</p> <p>町内に所在する文化遺産を切り絵で表現し、文化財に対する理解や関心を高めることで保存・継承し、町の魅力を情報発信していくため、「京丹波町の文化遺産 100 選」の制作を 3 年計画でスタートさせた。最終年度である平成 30 年度は、37 点を制作。</p> <p>⑥ 歴史調査資料事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分布調査</li> </ul> <p>遺跡分布調査により既存の遺跡地図見直しのため、遺跡の現状確認及び新遺跡等の情報収集を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試掘調査</li> </ul> <p>新庁舎予定地の遺跡範囲試掘確認調査を実施した。</p>	<p>○ 京都府の文化財補助事業に併せて、町として支援を行い、文化財の一層の保全が推進できた。</p> <p>○ 切り絵という独特の技法と世界観で町内の文化財を描き、文化財の保存・継承に向けて理解を高め、合わせて情報発信していくという斬新な取組が注目を集めている。</p> <p>● 専門的知識を有する職員の養成が課題である。</p>	
--	---	---	--

### 3 青少年健全育成

項目	事業内容・実績・対象者	成果・課題等	評価
<p>(1) 育成事業の推進・団体活動支援</p> <p>学校・家庭・地域社会・社会教育団体が連携して、豊かな感性や相互理解を大切にする心を育てるための社会</p>	<p>① 青少年育成事業</p> <p>京丹波町青少年育成協会活動への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総会 (6/19) 20 人</li> <li>・「青少年の非行・被害防止全国強調月間」街頭啓発 (7/7) 荒天により中止</li> <li>・「子育て講演会」(7/7)</li> </ul>		B

<p>参加活動、体験活動・交流活動の推進を行い家庭や地域の教育力の向上と青少年の健全育成に努める。</p>	<p>場所／山村開発センターみずほ        荒天により中止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京たんば花火大会パトロール (8/5)</li> <li>・みずほ夕涼み大会パトロール (8/11)</li> <li>・わちふるさと祭りパトロール (8/25)</li> <li>・「子ども・若者育成支援強調月間」街頭啓発(11/11)</li> <li>・クリスマス映画会 (12/15)</li> </ul> <p>場所／山村開発センターみずほ        224人</p> <p>② 京丹波町成人式開催事業(1/13)        対象者数 154人        参加者数 117人</p> <p>1部 式典、記念撮影、アトラクション        2部 新成人のつどい</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3地区の夏祭りのパトロールを行い、各地区の子どもたちが夜遅くまで徘徊していないか様子を確認することができた。</li> <li>○ 地域住民に対し、「地域の子どもは地域で育てる」という青少年を見守ることの大切さを啓発できた。</li> <li>○ 成人式参加者が自主的・主体的に取り組みを行えるよう実行委員会形式とした。1部では式典とし、2部では新成人のつどいを行い実行委員会が企画、進行を行った。実行委員会形式をとることで、主体性と自主性を促し、新成人の誓いの場としてより効果的な催しとなった。</li> <li>● 実行委員の応募が少なく、依頼をしたが十分な人数が確保できなかった。会議への参加も少なく、実行委員会形式を継続するか検討が必要である。</li> </ul>	
<p>(2) 放課後児童対策の充実</p> <p>地域社会の中で、放課後や週末等に子どもたちが安心して、健やかに育まれるよう、児童クラブ等の充実を図</p>	<p>① 放課後児童クラブの実施        町内3箇所で開催(支援員は毎日2人以上で対応)        開設日数 延235日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・のびのび児童クラブ1組(丹波)登録児童数(年度末)63人          支援員4人(通常は3名で対応)</li> <li>・のびのび児童クラブ2組(瑞穂)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 集団生活の中で健全な育成が図れた。</li> <li>● 意欲的な支援員の活動により運営できているが、体制面、施設面(老朽化)で課題を抱えている。</li> </ul>	<p>B</p>

<p>るとともに、地域の方々の参画を得ながら、学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動などの取組を実施する。</p>	<p>登録児童数（年度末）37人 支援員6人（通常は3名で対応）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・のびのび児童クラブ3組（和知）</li> </ul> <p>登録児童数（年度末）20人 支援員5人（通常は2名で対応）</p> <p>② 支援員研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学童保育指導員学校 4名</li> <li>・町職員研修 1名</li> <li>・放課後児童支援員等資質向上研修（2回） 1名</li> <li>・放課後児童支援員認定資格研修（6回） 1名</li> </ul> <p>③ 学童保育施設整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・のびのび児童クラブ1組の建設に向け、関係者に対してヒアリング調査を実施した。 （丹波地区3小学校長、のびのび児童クラブ1組支援員、丹波地区主任児童委員2名）</li> <li>・利用者アンケート調査を実施した。 対象者：利用児童保護者 配布数：99人 回収率：77.7%（77人）</li> </ul> <p>④ 京のまなび教室推進事業 全町4教室開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあいサタデークラブ 手作り教室（アイロンビーズ、ブロック遊び、ボードゲーム、風鈴作り、折り紙、クリスマスリース、鬼面作り等） 土曜日 中央公民館 36回開催 参加者数 延179人</li> <li>・総合型地域スポーツクラブ ソフトバレーボール、野球、ボクシングフィットネス、バドミントン、卓球、バスケットボール、ホッケー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全学年を対象とした運営ができた。</li> <li>○ 利用が増加する夏休み中に支援員を増員することにより、受け入れ態勢を強化できた。</li> <li>○ のびのび児童クラブ1組について、夏休みの一部期間を丹波ひかり小図書室で開設し、児童のプール利用時の負担が軽減した。</li> <li>○ のびのび児童クラブ1組の新築について、実施設計業務が完了した。</li> <li>○ 主に土曜日に、子どもたちが継続してスポーツや文化活動など様々な体験を行える居場所を全町で確保した。安心して子どもが参加できる機会として、地域の特色を活かした活動が展開できた。</li> <li>○ 通年の取組により定着してきている。常連となっている方を優遇するような閉鎖的姿勢でなく、子どもの居場所づくりを進め、その日の子どもの状態にあわせ、遊び学ぶ自然な運営を心がけている。</li> </ul>
---	---	---

	<p>土曜日 瑞穂小学校ほか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども合唱団</li> </ul> <p>活動回数 34回      団員数 14人、指導者 2人      定期練習 月3回      成人式での発表、園部高校・附属中学校合唱部定期演奏会鑑賞研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども和知太鼓教室</li> </ul> <p>土曜日 和知小学校</p>		
<p>(3) 学校支援対策の推進</p> <p>未来を担う子供たちを健やかに育むため、学校・家庭及び地域住民が、地域全体で子供たちを育むため学校や子供たちを支援する。</p>	<p>① 学校支援地域本部事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和知小学校部会</li> </ul> <p>対象学区 和知小学校      運営委員会 4回開催</p> <p>活動内容      星月の観察会、高齢者施設交流、サツマイモ栽培体験花壇整備、読み聞かせ、和知人形浄瑠璃、和知太鼓、金管バンド</p> <p>年間活動日数 149日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・瑞穂小学校部会</li> </ul> <p>対象学区 瑞穂小学校      運営委員会 3回開催</p> <p>活動内容      読み聞かせ、黒豆栽培、加工体験、地域農産物学習、天体観察ほか</p> <p>年間活動日数 35日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下山小学校部会</li> </ul> <p>対象学区 下山小学校      運営委員会 5回開催</p> <p>活動内容      ふるさと学習、八坂太鼓体験、環境整備、登下校見守り、読み聞かせ</p> <p>年間活動日数 231日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丹波ひかり小学校部会</li> </ul> <p>対象学区 丹波ひかり小学校      運営委員会 4回開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域ボランティアの支援を受けて学習の内容の広がりや深みのある学習ができるようになった。</li> <li>○ 自然を身近に感じ自然を再発見する感動等が親子・学校職員・地域の参画者と共有できた。</li> <li>○ 農業体験等においても、作物の学習、栽培や加工、試食、販売を通じて色々な知識を実感として学ぶことができた。</li> <li>○ 様々な大人との活動体験は、子どもを取り巻いている社会の体験であり、そこで子どもたち自身の包み込まれた感覚は、地域社会が子どもを育んだ実績である。</li> <li>○ 丹波ひかり小学校が、地域と学校が連携・協働した様々な取組が評価され、「地域学校</li> </ul>	<p>A</p>

	<p>活動内容          水稻・黒大豆、サツマイモ栽培、ふるさと学習、環境整備、読み聞かせ、登下校見守り          年間活動内容 309日</p> <p>・竹野小学校部会          対象学区 竹野小学校          運営委員会 1回開催          活動内容          環境美化、地域産業（オイル・林業）学習、バジル栽培、オイル販売体験、林大と連携した林業・木工体験、餅つき・しめ縄づくり体験、校歌伝承山登山体験、読み聞かせ          年間活動日数 7日</p> <p>② 京丹波「森のまなび」推進事業  <b>【和知小学校】</b>          京丹波町の木とふれあい、木に学び、木と生きる取り組みを通じて、子どもたちの豊かな感性を育む木育を推進。          ・植林、育林、伐採、製材加工に至る過程についての学習（4～6年）          ・木琴作り（4年）・木製パズル（5年）・オルゴール（6年）</p> <p><b>【瑞穂小学校】</b>          京丹波町の森林資源の活用方法について理解を深める取組          ・裏山の自然について学ぶ          ・山の働きについて学ぶ          ・間伐、植栽について学ぶ          ・京丹波町バイオマス産業都市構想について学ぶ</p>	<p>協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰を受賞した。</p>
--	--	---------------------------------

4 競技・生涯スポーツ

項 目	事業内容・実績・対象者	成果・課題等	評価
<p>(1) スポーツ・レクリエーション活動の推進</p> <p>健康で豊かな生活を育むため、年齢や体力、目的に応じていつでも、どこでも主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツの推進に努める。</p> <p>また、関係機関、総合型地域スポーツクラブを含む各種団体と連携を図りながら積極的にスポーツ活動を推進するとともに、指導者の養成や団体の自主的な活動を支援・促進する。</p>	<p>① 大会・教室の開催            体育協会連携事業            ・<u>地域対抗スポーツ交流大会</u>            グラウンド・ゴルフ大会            (6/10) 204人            ボウリング大会            (8/17) 63人            ソフトボール大会            (8/26) 86人            ソフトバレーボール大会            (9/16) 70人            ゲートボール大会            (10/28) 80人            駅伝競走大会            (12/9) 257人            卓球大会            (1/20) 134人            ・<u>種目別スポーツ交流大会</u>            ホッケーフェスティバル            (4/28, 29) 640人            軟式野球大会            (5/20) 41人            ゴルフ大会            (7/16) 58人            弓道教室〔10回〕            (7月～9月) 延べ50人            パークゴルフ大会            (11/25) 65人</p> <p>② スポーツ推進委員会活動事業            ・<u>ルネッサンスウォーキング</u>教室            (5/20…25人、11/23…41人)            合計66人            ・いきいきシルバーオリンピック            (9/29) 29人            ・初級スキー体験教室            (1/26) 参加予定43名            荒天により中止</p>	<p>○ 京丹波町体育協会をはじめ各関係機関との連携を密にして、町競技として位置づけられているホッケー・カヌーも取り入れながら、子どもから高齢者まで生涯スポーツの振興を積極的に進めることができた。</p> <p>● 地域対抗スポーツ交流大会への参加地域が偏っている。            広域的な大会や区が主催されているスポーツ大会に参加されている地域を、地域対抗の得点加算に反映できるような仕組みを検討する。</p> <p>○ 各地区体育委員によって、企画された地域行事など開催されており、委員に積極的に活動いただいている。</p> <p>○ スポーツ推進委員がスポーツ教室の指導者コーディネーターとして活躍し、住民の生きがいをつくり、健康寿命を延ばす取組が評価され、全国スポーツ推進委員連合会表彰の優良団体表彰を受賞した。</p> <p>○ スポーツ推進委員が各事業の指導者コーディネーターと</p>	<p>A</p>

	<p>・府協議会・南丹協議会事業への参加。カヌー教室における指導。</p> <p>・各地区体育委員会におけるニュースポーツの周知・指導助言</p> <p>③ 海洋センター活動事業</p> <p>・カヌー教室〔3回実施（2回中止）〕 （7/14～8/25）延べ77人</p> <p>④ 京丹波町スポーツ賞表彰式典 町民スポーツの広がりを周知することにより継続的な生涯スポーツを推進する。（3/16） （表彰者数 団体6、個人15）</p> <p>⑤ 総合型地域スポーツクラブ活動支援</p> <p>運動施設使用料減免による会場の提供を行う。意見交流会の開催。（〔 〕は発足年）</p> <p>京丹波町スポーツクラブ〔H25.4〕 会員数 40人</p> <p>丹波スポーツクラブ〔H19.2〕 会員数 38人</p> <p>桧山わいわいクラブ〔H15.6〕 会員数 50人</p> <p>さんさんクラブ〔H15.11〕 活動休止</p> <p>和知スポーツクラブ〔H17.4〕 会員数 14人</p> <p>質美スポーツクラブかがやき〔H15.8〕 活動休止</p> <p>梅田げんき村〔H16.3〕 活動休止</p> <p>⑥ 京丹波町スポーツ少年団活動支援</p> <p>・単位団、専門部会活動支援</p>	<p>して活躍してもらっている。今後、さらに資質を向上してもらえるような学習会や研修会を継続的に実施する。</p> <p>● クラブ活動が困難になり、活動を休止しているクラブがある等、今後の取組についての検討が必要である。</p> <p>○ 施設使用料等を補助し、スポーツ少年団の活動を積極的に行えるように努めた。</p>	
--	--	---	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動施設使用料減免による会場提供</li> </ul> <p>⑦ 京丹波町スポーツ少年団による 団員指導者対象各種事業の実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダー育成事業・団員拡充団員交流事業:リーダー研修会(蹴鞠の体験研修会)、団員拡充(団員募集チラシ配布・5月体験入団月間の実施)</li> <li>・指導者保護者対象研修会(食事や栄養に関わる研修)</li> <li>・団員指導者研修会(パラアーチェリー上島友裕選手による講演・体験会)</li> </ul> <p>⑧ 2020 東京オリンピック、2021 ワールドマスターズゲームズに向けた取り組み。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都府スポーツ観光聖地づくり事業 ホッケーPRフィールドの設置 チームベンチや物置を設置 町内外の方を対象にした初心者向けのホッケースイーツフェスティバル(雨天中止) 3/21 参加予定 16 チーム 118 人</li> <li>・定例ホッケー教室(ホッケー日本代表選手等による教室) 計 11 回</li> <li>・中学生を対象にしたホッケーキャンプ 9/22~24 9 チーム(埼玉県、奈良県、滋賀県) 参加人数 110 人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年間を通して、団員拡充事業、リーダー育成研修、指導者育成研修等、計画的かつ明確な目的を持って実施をすることができた。</li> <li>○ 青少年の健全育成にとどまらず保護者に対しても研修を行い、精力的に活動を展開してきたことが評価され、京都府青少年健全育成功労者表彰を受賞した。</li> <li>● スポーツ少年団への参加意義がより広く理解される中で、スポーツへの関心や参加意欲を高められるよう、各事業内容の一層の充実を図る。</li> <li>○ ホッケー指導者の強化を図ることができ、人脈を活かして全日本代表選手を講師に招くことができ、ホッケーの普及と強化を図ることができた。</li> <li>○ ホッケー合宿の聖地化を図るため受け皿となる施設の改修を順次行うことができた。</li> <li>○ 大学選手権大会や全国選抜12歳以下のホッケードリームキャンプの誘致を行い、京都トレーニングセンターとグリーンランドみずほホッケー場を拠点としたトレーニングを組み合わせたホッケーの合宿の仕組みのPRを行うことが</li> </ul>	
--	--	--	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ国際交流員の任用</li> <li>・地域おこし協力隊の採用</li> </ul> <p>⑨ 京都トレーニングセンターとの連携事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成人を対象とした健康・体力づくり検証プロジェクト事業 (体力測定、栄養講座、メンタル講習、コンディショニング講習、測定会) 5 講座、 3 期、合計 28 人</li> <li>・ジュニアアスリート育成プロジェクト (測定会、スポーツ栄養・保護者向け栄養講座、メンタル講習、トレーニング講習) 10 講座 20 人</li> </ul> <p>⑩ 京都府オリンピック・パラリンピック教育推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月9日(土) 瑞穂中学校オリンピック。パラリンピック講演会 講師 車椅子バスケット元パラリンピック選手 神保康弘氏</li> <li>・11月17日(土) 蒲生野中学校PTA人権研修会 演題「車椅子バスケットの方からスポーツを通じた人権について学ぶ」 講師 京都アップス</li> <li>・11月17日(土) 親子人権学習 演題「異なる価値観や文化に対する理解～グローバル社会における「おもてなしの心」～」 講師 江上いずみ氏 筑波大学大学院客員教授</li> </ul>	<p>できた。</p> <p>○ 成人の講座では、受講者の健康及び体力に対する意識の変化により、運動能力や運動機能の改善が見られた。</p> <p>○ ジュニアの講座では、効果的なサポートを受けることで、自分の身体の特徴を客観的に知ること、自分に必要な体力づくりが自覚できた。</p> <p>○ 東京2020オリンピック・パラリンピックを契機としたオリパラ教育により、大会への興味関心の向上だけではなく、国際理解、共生社会への理解等について考える機会となった。</p>	
--	---	--	--

<p>(2) スポーツ施設の活用と整備</p> <p>社会体育施設の維持管理を行うとともに学校施設のグラウンド・体育館の一般開放を進め、町民が利用しやすい施設として充実させる。</p>	<p>社会体育施設の維持管理と利用促進を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会体育施設〔15施設（プール5、グラウンド4、体育館等5）〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>使用回数 延べ671回</li> <li>使用者数 延べ15,343人</li> </ul> </li> <li>・修繕件数 23件 <ul style="list-style-type: none"> <li>参考 29年度 35件</li> <li>28年度 27件</li> <li>27年度 25件</li> </ul> </li> <li>・和知B&amp;G海洋センター〔2施設（プール・艇庫）〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>使用回数 延べ195回</li> <li>使用者数 延べ1,684人</li> </ul> </li> <li>・瑞穂B&amp;G海洋センター（指定管理）〔3施設（プール・武道場・体育館）〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>使用回数 延べ752回</li> <li>使用者数 延べ6,499人</li> </ul> </li> <li>・学校施設〔18施設（グラウンド8、体育館等10）〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>使用回数 延べ977回</li> <li>使用者数 延べ11,645人</li> </ul> </li> </ul>	<p>○ 突発的な修繕に対応することで、利用者の安全を確保し、使いやすい環境整備が図れた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各社会体育施設とも老朽化が進み、修繕が必要な箇所が増加し、突発的な故障も多発している。</li> <li>● プール施設においては、利用者の減少などを理由に利用していない施設が増えてきた。</li> <li>● 高温により遊泳を中止した日が多くあり、テントを設置するなどして対策を行った。</li> </ul>	<p>B</p>
--	--	--	----------

## 8 平成30年度の教育委員会会議・教育委員活動の総括

### (1) 教育委員会会議について

教育委員会の機能強化や町教育行政の活性化を目指し、定例会等において、5名の教育委員それぞれが持つ専門性、かつ住民・保護者の視点で、本町教育における課題や国・府の教育に関わる動向について、活発な意見交換を行った。

総合教育会議においては、本町教育の現状と課題、施策について積極的な意見交換を行い、本町が目指す教育の方向性について議論を行った。

今後もあらゆる機会をとらえて積極的な検討、議論を行い、より良い教育環境の整備、人材育成に取り組む。

### (2) 教育委員研修について

教育委員の研修については、京都府及び南丹地区教育委員連絡協議会主催の研修等に積極的に参加し、国・府の教育施策についての理解を深めるとともに、他市町村の先進事例について学び情報交換を行うなど、教育委員としての資質の向上に努めた。

今後も、定例会等の会議や学校訪問を通じて顕在化した問題点を認識した上で、各種研修会への参加や研究協議の実施に取り組む。

### (3) 学校等の実態把握について

委員全員による学校訪問等により、教育活動の参観や学校との意見交換を行う中で、近年の社会経済情勢の変化や保護者の価値観の多様化が、幼児・児童生徒の実態に影響を与えている現状を把握し、より良い教育行政を推進するために、各学校・幼稚園との連携を強化した。

また、全国的な問題となっているいじめ、体罰、通学時の安全対策、及び学校・幼稚園休業中の安全対策についても、本町の状況について把握を行うとともに、各学校長・幼稚園長と連携を図りながら、的確な判断と迅速な対応により、幼児・児童生徒の安全確保に努めた。

### (4) 社会教育の推進について

教育委員会定例会において、社会教育課からの事業報告により、社会教育事業の成果や課題について把握を行った。各種社会教育団体に委員として参加し、積極的に活動を行った。

平成30年度は、社会教育委員と学校、地域、家庭が総がかりで子どもの成長を支援する環境づくりについて懇談を行った。今後も社会教育委員と意見交換を行い、子どもから高齢者までが生涯学習を通して地域への誇りを感じる事業の推進に取り組む。